

LULUの勝手に ドラマ談義3

～2015・春～初夏



LULU

案外一番好きだったかも・・・「天使と悪魔～未解決事件匿名交渉課～」

剛力彩芽と渡部篤郎主演で、現在の日本では認められていない、司法取引をテーマにした刑事もの。剛力ちゃんがまっすぐで素直すぎる捜査一課を干された女刑事を、渡部さんが飄々として何を考えているかわからないけれど、実は熱い気持ちを秘めた元検察官の弁護士を演じました。

2人の役柄の対比が見事で、最初は人を疑ってかかる弁護士が優勢で事件は解決していくのですが、時として正義が勝ってしまう瞬間があるというなかなかよく出来た展開でした。剛力ちゃんがこのナチュラルに人を信じられる、清廉な刑事の役が必死さも手伝ってすごく良くて、渡部篤郎もクールで正解を導けるキレ者なのだけにお茶目な面もあり、時として剛力ちゃんに引きずられてしまう瞬間がある揺れみたいなものが滲み出ている感じがすごく良かったな～。

ここで間違っていなければ、ここで解決していれば・・・そんな瞬間がいくつもあって、掛け違いによって未解決に葬られようとする事件を、掛け違ったところまで丁寧に戻ってほめていく。

捜査一課も嫉妬するような抜群の組合せで、事件を掘り起こしていく2人だけの匿名交渉課。最後は、巨悪をあぶり出すことに成功し、それぞれの道に戻る。

密かに同じ深夜枠でのシーズン2期待してます・・・。間違っても映画とか言わないで～。

さて。

剛力ちゃんの、スーツの下に着ていたスポーツウェアみたいなのがいつも気になってました・・・案外クールで恰好いい。この飾り過ぎない刑事っぷりが、必死で走り回る刑事役として完璧なスタイルで気持ち良かったな～。

時々、必死で走る姿がまるでキマってない役者さんとかいるけど、それは刑事モノ出ちゃダメだろう!と突っ込みたくなりますもん。

剛力ちゃんには、変な小細工はせずに押せ押せピュア女子を今後も熱演して欲しいです!

折れたけどすこしだけくっ付いた・・・「心がポキッとね」

コレ、視聴率はイマイチだったのかな。一説によると、一桁の半ばぐらいだったみたいですね・・・。口コミでは早々から、期待外れ意見が目立っておりましたので、仕方ないのかもしれないですねえ。

ただ、最近少なくなってきた食事時に観ても安心のドラマ代表格なので、こういうのが無くなっちゃうのは寂しい。時折心が折れそうながらも、最後まで観ました。

ストーリーとしては、それぞれに心を病んだ人たち(ちょっと変わったひとたち)の集まりで、ドタバタといろんなことが起きて、それなりに毎回しゅーっと決着していくわけなのですが、少々ご都合主義なエピソードもアリであんまりネットリしないノンオイルドラマでした。

とくに、母親が登場したときには、何かあるかと思いきや、まる一くおさまって「え？お母さん一回だけで終わり？」と拍子抜け。

ハルタ役の阿部サダヲも、ストーカーだった水原希子演じるみやこちゃんも立ち直って人生が素晴らしいって思っているというラストで救いはあったし、あの天然キャラ爆発の藤木直人は良かったと思う。新境地・・・でしょう！キラキラ王子もあんな使われ方をすると、妙な味があると言いますか・・・。

ねっとりさせようと思えばいくらでも出来た展開。

阿部サダヲが会社の上司で恩人である藤木直人と、元妻山口智子を取りあってドロドロ。その間に水原希子ちゃんが藤木直人といい感じに・・・みたいなのが、実にさらさら一っと流してくれて、逆に清々しい。

きっと明るくて、軽くて、いいじゃん！人生！みたいなのを作りたかったのじゃないのかな。

面白くはありましたが、ただ・・・もう少し山場というか、見所というか、事件があっても良かったかな。

そして・・・相棒の角田課長が精神科医役で登場だったのですが、最後までほぼセリフなし！

何これ？演技力を逆に買われてるってことなの？

とにかく、不思議なドラマでした・・・何年か経っていい味が出てくる・・・のか？

SPECと比べてしまってますまぬ～「ヤメゴク」

堤幸彦演出で期待感半端なかった「ヤメゴク」。

最終回まで見た感想は「勝地涼演じる佐野くんはどうなったの～？」ぐらいかなあ。

実は今クール半ばくらいから、録画保存してあった「SPEC」を再度見直してみちゃおう強化月間スタートしちゃったのですが、それから比べるとやはり面白さは半減です。

これって何だろう？今回は題材的にも警察対ヤクザという、分かりやすいが幅を広げづらいテーマだったからということかもしれませんし、後半コミカル部分も押し出してきたものの、全体的にかなり暗いというか、もたつとしたトーンが単調過ぎたかも。

それから比べると、SPECにはちゃんと強弱があって、ゆえにシリアスがより際立つような作りだったような気がします。(SPEC大好き人間の感想)

キャラクターがとても魅力的だったしな～。(SPEC崇拜型の意見)

ただし!!!

どんどん頭角を現してきた、勝地涼。確かに流れ的には後半にぐっと本性表したほうが面白いと思うのですが、もうちょっと佐野くん見たかったな～。

後半は勝地くん引っ張られたと言っても過言ではない!すごく魅力的だったし、緊迫感がぎゅうぎゅうと詰まっていた～!(行きつけのバー、オシャレだったし)

最終回に無理矢理のようにいろんなことが順調におさまっていくのがモヤモヤしたし、そもそもの恨みも、その後の許しも個人的には理解しづらかった。

結局のところ・・・大島優子はあの役にはハマってなかったな。深いキャラクターになりきれておらず、ただ「暗い」ヤツになってしまってたかなと思う。服装とか髪型なども工夫したとは思いますが、髪型がぼさぼさちっくなのは「当麻?!」と思わなくもないし、もうちょっと別の一面が見たかったかな・・・

アクションは格好よくて見ごたえあったので、そこは良かったです、次の堤作品に期待したい。うん。

ジャニーズ主演を一気に「アルジャーノンに花束を」「ようこそ、我が家へ」「アイムホーム」

ジャニーズ主演は外せない！ということで3作品をここで。

野島伸司脚本監修で話題だった「アルジャーノンに花束を」。

山Pの演技は良かった！

話の流れは原作が有名なだけに分かりきっているのですが、そこにうまく薬品会社と研究所、そして友人関係を盛り込んで日本版として成立させていました。

友達とは対等であること、というテーマが全体を引っ張ってました。

最後のほうはちょっとご都合主義っぽい部分はあったものの、毎週続きが知りたくて早く観たいと思う数少ないドラマでした。

ほぼ観てなかった「ようこそ、我が家へ」

相葉くん主演。最初と最終回のみで終わっちゃいました。先に小説を読んでしまったので大体の流れはわかるものの、やっぱり健太の役は相葉くんだと大分イメージ違っちゃうな～。寺尾聡サイドの会社の不正の話は良かったんですけど・・・竹中直人なんてあの役にぴったり！でも月9で寺尾聡主演はさすがにないので、仕方ないのかな。

そして大御所キムタクの「アイムホーム」

謎解きもカギの秘密も単調になってきて、正直途中ちょっとダレちゃいました。必殺の倍速再生も駆使しかかってましたし。

ただ後半3回くらいで上戸彩ちゃんの浮気か！？騒動や、かつてこの夫婦はもしかして何か問題があったのかもしれない・・・と思い始めた頃から興味津々。

最初は上戸彩のどうも冷めたような態度が気になっていて、真実はここに繋がっていたのか！と思ったのだけど・・・結局キムタクが瀕死の状態になったときに一番支えていたのは妻だった、みたいなオチで、ななんだという。最後のキムタクの妻への愛情表現も「ちょっと大袈裟なのでは？」と思えるほど。

ライバルのはずの田中圭も、乗り込んできたわりにはあっさり引いて肩すかしだったし。

やはりキムタクオーラはすごかったか!!!

上戸彩ちゃんが最後まで美しく金持ちのお嬢さん役ハマってました。途中からはおっぱいが気になって仕方なかったけど・・・ハッピーオーラが半端なかった！

キムタクってああいうクールで冷酷なサラリーマン役って案外ハマるかも。そろそろ悪役も解禁にしてはどうだろう？

地方都市の問題をさらりと描いた「不便な便利屋」

ようやく最終回を見切った「不便な便利屋」。

とにかく地元愛溢れる監督が、地元を愛する役者を使って、地方都市(田舎)に根付く問題をカラリとあぶり出したオハナシ・・・という印象でした。

主要役者がちゃんとしていたし、地元をもり立てようとするけどあんまりうまくいかないというリアルさを追求して、コメディとシリアスがバランスよく配合された大人のドラマでした。思い込みが激しく、時として暴走してしまう愛すべきキャラを岡田将生くんが爽やかに演じ、お茶目なバツ3の男が遠藤憲一で味わい深く、飄々としているけど人一倍優しい便利屋の代表を鈴木浩介と、安心して観られるドラマでした。

毎夜飲む酒場も、哀愁漂っているけど何だか楽しそうだし、そこにはいろんな人がやってきては去って行き、最終回のエンドロールでは「ああいろんなことあったな～」なんて、その中に入っているかのように思わず懐かしんでしまいました。

全12話と、1話が短いとは言え、最近のドラマにしてはきっかりワンクールやり切ったのだなあ。最後まで見応え充分で、映画でもなく舞台でもなくドラマの良さが存分に感じられる作品でした。地方都市の問題点って案外あんなことで解決していくのかもしれない・・・というリアルなストーリーも興味を引きました。

BSで再放送中のようなですので、気になる方はぜひ。

wowowドラマとスペシャルドラマを少し

wowowドラマで結構良かったのが「夢を与える」。

小松菜奈と菊池凜子主演で、子役から芸能生活をスタートさせた女の子がスターダムにのし上がり、スキャンダルによって転落していく様を描いたもの。綿矢りささんの同名小説が原作。珍しいタイプのドラマで、一話ごとの終わり方がすごく唐突。思わせぶりとか次への期待感というのが何もなく随分戸惑いました。

スキャンダルがバンと先に出て、さかのぼるようにして幼少期の夕子が登場するのですが、そこには子役として活躍する輝かしい人生とは別の、素朴で純粋な女の子がいる。その子が指示されるように、「どんな人になりたいか」という未来への希望も、「夢を与える」という言葉に萎縮させられてしまう。

大人なのだけれど、子供でもある多感な女性を、小松菜奈が美しく怪しく演じていました。菊池凜子が、かつて輝いていた自分を忘れられず、娘にその全てを託してしまうステージママをリアルに演じていました。フランス人の夫との会話が見事。国際的に活躍する彼女ならではの役作りでした。

wowowドラマは、最後に肩すかしが多くていつも用心するのですが、これは結構好きなタイプのドラマでした。

そして、合間に放送されるスペシャルドラマで秀逸だったのが、バカリズム脚本、真木よう子・水川あさみ・竹内結子が主演の「かもしれない女優たち」。

今や、主役級の彼女たちが「もし女優としての転機を迎えていなかったら・・・」というもしも話。

コメディタッチでテンポがいいですし、真木よう子と水川あさみの意気投合酔っぱらいシーンなんてマジで笑っちゃいました。

いやあ、コメディーターとなると水川あさみがいい！あんまりコメディがイメージに無い竹内結子も、違う顔を観られた気がしてすごく良かった。

真木さんファンなので、真木よう子さんが良かったのは言わずもがな。

それぞれに女優にならなかった場合の人生が描かれているのですが、うまいのがそれぞれが一緒の世界を生きているようですこーしずつズレているところ。

なんかそれがオシャレに写ってしまうのだな〜。バカリズム、すごいつ。選Taxiも好きだったぞ。今後にも期待。

そして最後に・・・日刊真木よう子、読みたい！

そして・・・清野菜名ちゃん目当てで見た「永遠のぼくら」。

ごめんなさい、端的に言うとあまり面白くなかった・・・。いや、全く面白くなかった。

出演が、有村架純、成海璃子、山崎賢人、窪田正孝、そして東出昌大ということで豪華キャストに惹かれましたが、もう最初のナレーションからのカーペンターズでもうぞわ〜としちゃって、

これはやはり・・・青春してないゆえのココロ追いつかない系だろうか、寂しい限り。(こういう演出をざぶいと思ってしまう哀しさ)

ただし、出逢いが最悪の男女が、大雨振られて2人きり、本音話し惹かれ合い、でも元カノ出現でこじれ、自殺未遂だの何だのあった挙げ句に、黙って消える算段とは！

そして当然追いかけるよね～、空港で抱き合う・・・って、一昔前のドラマかつ!!!と突っ込みたくなりました。

こういうのに、キュンキュンこない自分を憂うべきなのだろうか・・・窪田くんは素敵だったけどな～。うんうん。ただ東出くんのあの使い方はどうだろう？あのメンバーだともう世間を把握してる兄さん役になっちゃうのかい？

ということで、文句言う余地ありありでかなり楽しみました。